

# 2021年度活動報告

産業日本語研究会  
ライティング分科会

# 2020年度成果

- 「ビジネスマンのための書き方読本／理論編，  
実用編」\*
  - 合理的な書き方の説明（説得型と共感型）
  - 説明用例集

\* 令和二年度 産業日本語研究会 報告書 「産業日本語」：32頁～71頁

|         | 説得型      | 共感型     |
|---------|----------|---------|
| モノコトの表現 | ～がある     | ～である    |
| 実在      | 外形存在     | 役割存在    |
| 動き      | 位置変化（動作） | 質変化（状態） |
| 時間経過    | 連続的      | 離散的     |
| モダリティ   | 知覚・経験優先  | 認識・心情優先 |
| 因果・因縁   | 知覚的近接性   | 認識的近接性  |

# 2021年度成果目標

- 「ビジネスマンのための書き方読本」
  - 内容の増補（合理性の出处「叙述のための意思決定過程とその表現」の追加）
  - 母語への気づきにも重きを置く（モノゴト表現が不変・普遍的な意味に偏ること）
- 合理性の主な概念\*
  - 叙述の希少性仮定
  - 情報量と条件付き確率
  - 確率的ヒューリスティクス（probability heuristics）と認知的バイアス（cognitive bias）

\* K・マンテクロウ, 「思考と推論 理性・判断・意思決定の心理学」, 北大路書房, 2015年

# 書き方の指針

- 不確実さと叙述（表現）の関わり
  - 日常世界には確実な言明はない\*  
（一般的事実は（常に）破棄可能）
  - 言明による推論過程は証明でなく情報獲得である\*  
（論理的に書くのではなく合理的に書く）
- 説明内容
  - 根拠や裏付けの存在は確率的であり、且つバイアスのある思考過程であることを説明する\*
  - 因果推論（思考と推論）の妥当性を支持する解釈を、書き方の解釈に言い換えること。とくに脱文脈化と共感の両立の仕方を説明する

\* K・マンテクロウ, 「思考と推論 理性・判断・意思決定の心理学」, 北大路書房, 2015年

# 脱文脈化

- 理に適う意思と経験
  - 個人経験から集団の経験（社会）
  - 個人の意地から集団の決断（意思，道理）
- 理に適う感情と情緒
  - 個人感情から集団の感情（道徳）
  - 個人の感傷から集団の心情（倫理，道理）
- 表現に反映させる（言語の表現技術）
  - 連体句や連用句（「外の関係」の再解釈）
  - 補語と用言（動詞述語，形容詞述語，名詞述語）
  - 関係推移（連用テ形の考え方）

# 思惟（因果関係）の背景

- モノゴト（概念）の实在のさせ方
  - 分節の二形態...食パンモデル
- 因果性を实在させる領域
  - 集団の意思と経験, 集団の感情と情緒
- 叙述の仕方を決める視点（言語の思惟知識）
  - 記号（シンボル）が持つ属性と次元（特徴量）
  - モノゴトのプロトタイプと意味の拡張
  - 関係の推移（叙述空間の単一性・複数性）
  - 関係性の違い（決定論的・確率論的）

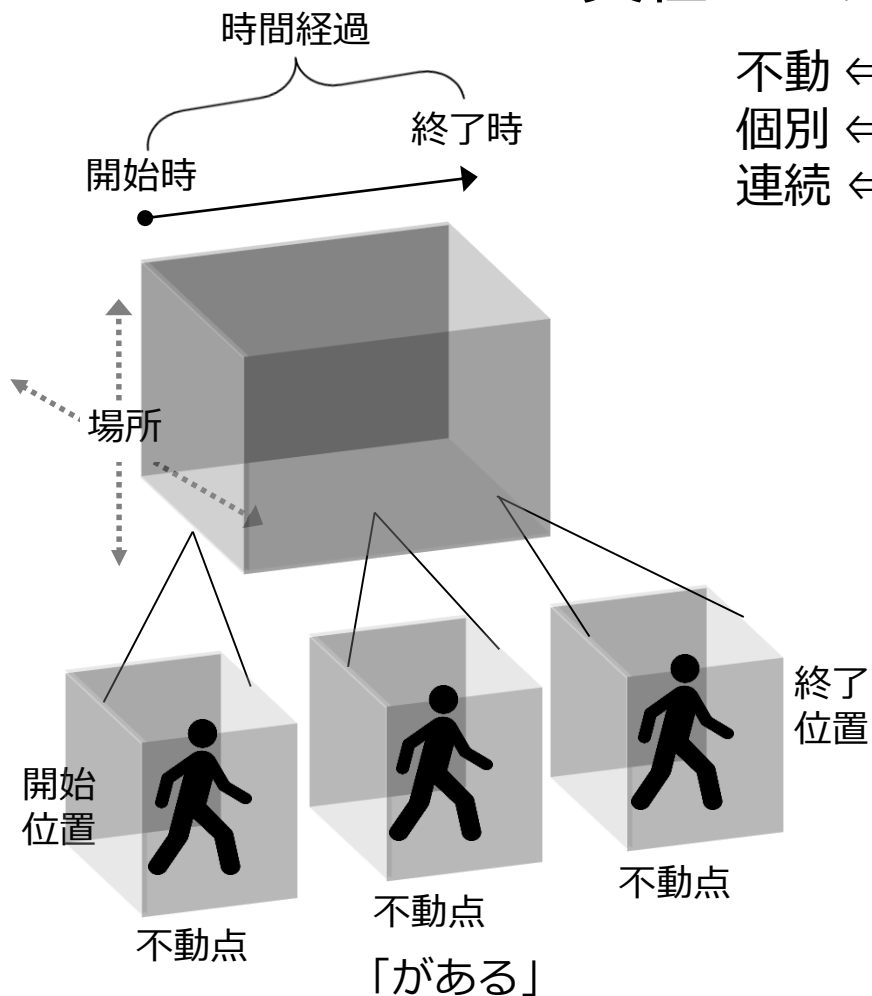
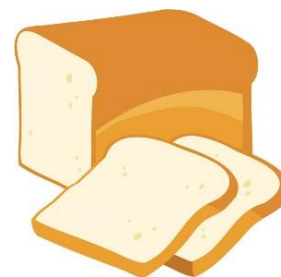
# モノゴトの在り方（分節）

- 分節（segmentation）：全体性の中における分化した構成部分を表す（心理学）  
無分解の世界を，全体と或いは相互の関連を持たせながら，区分けて取り出して実在させた対象を指す
- 2つの方法
  - （1）空間方向に分解を試みる空間指向
  - （2）時間方向に分解を試みる時間指向

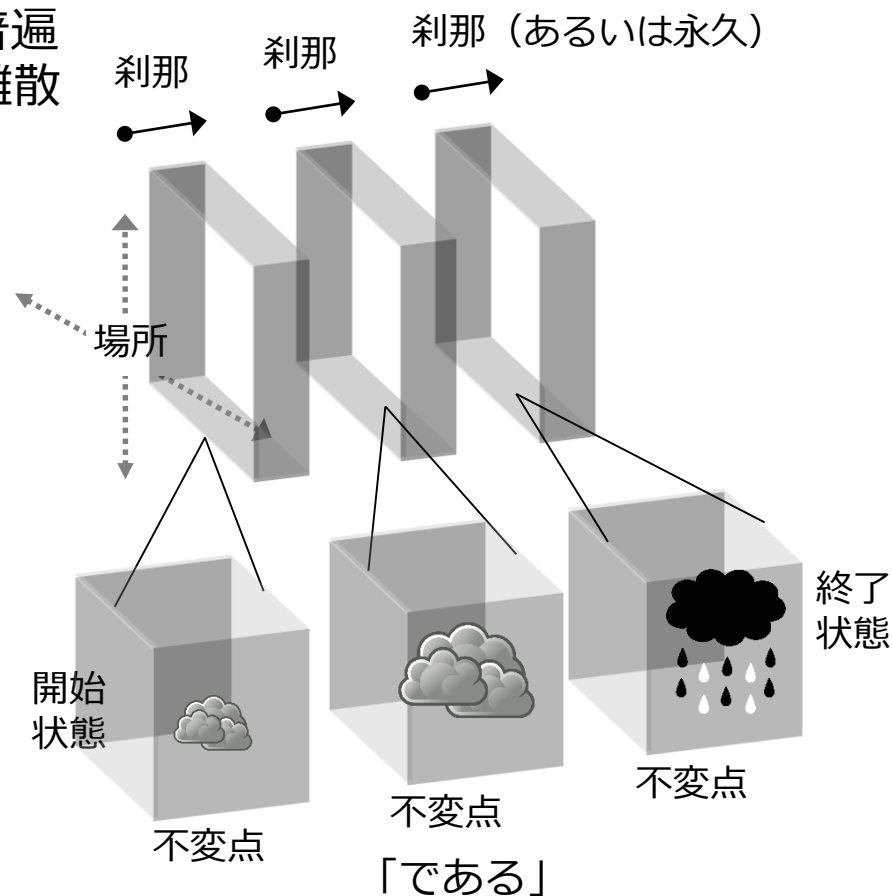


# 食パンモデル

## 実在のモノゴトの作り方



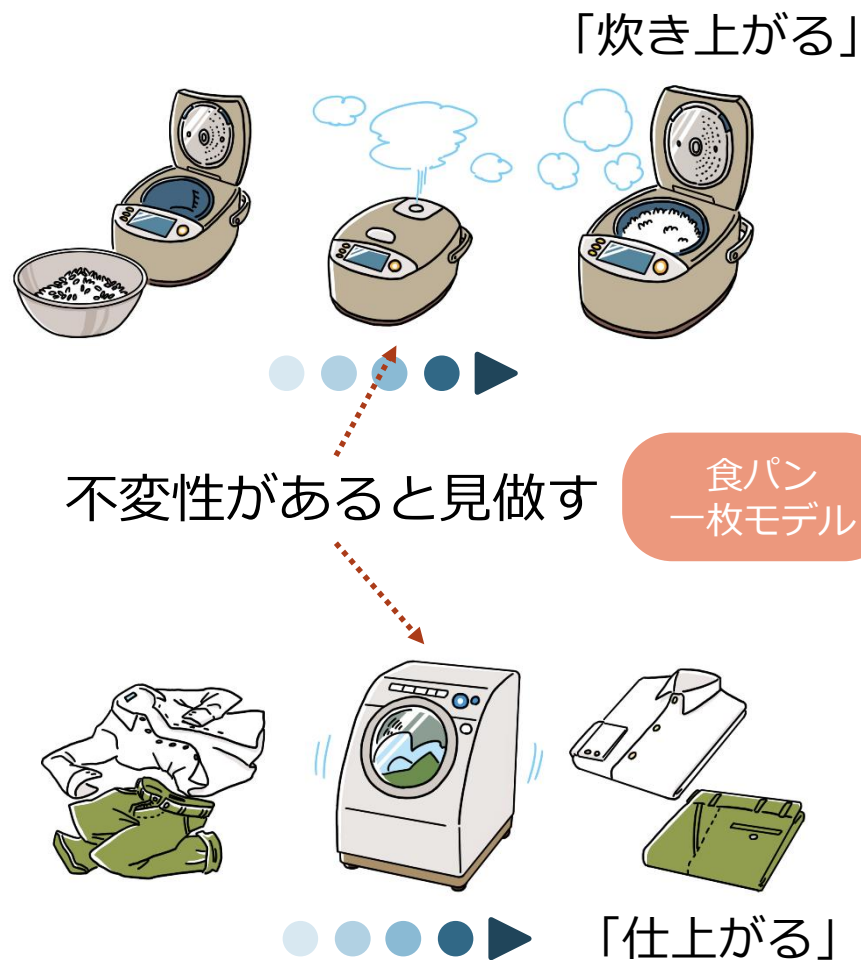
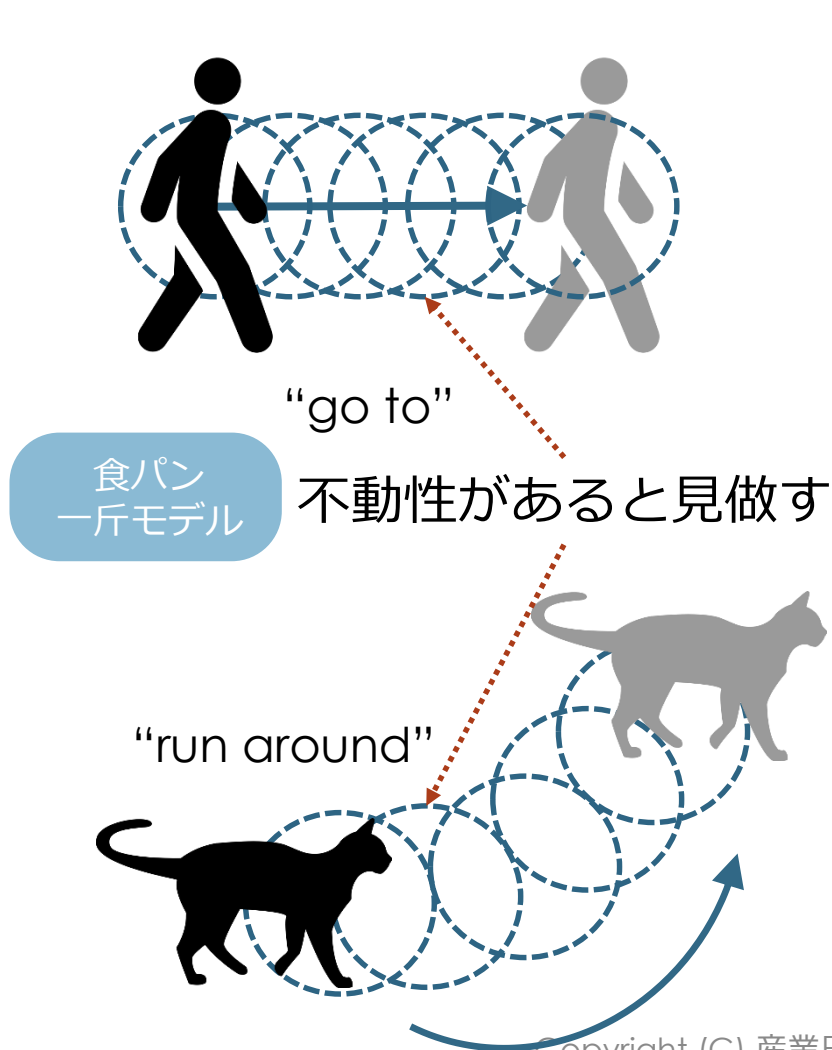
(1) Copyright (C) 産業日本語研究会ライティング分科会



(2)



# 実在の物と動き（モノゴト）



# 表現の違い

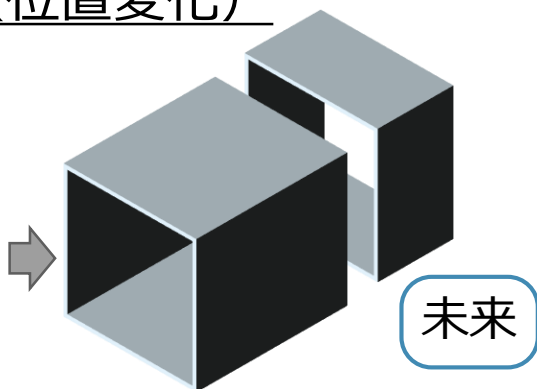
- 「～がある」説得型
  - 名詞（モノ）は、形状・量・程度が意味に結びつく
  - 出来事（コト）どうしは連続的につながる（空間配置）
  - したがって、コトどうしの関係性が「Aである、AならばB」という必然的な関係に近い  
(1)
- 「～である」共感型
  - 名詞（モノ）は、役割を軸に多視点の意味がある
  - 出来事（コト）どうしが不連続的に表現される（時間順序）
  - したがって、コトどうしの関係性が「Bである、たぶんAならばB」という尤もらしい関係に近い  
(2) (☞ 母語の傾向)

# 叙述の時空間イメージ

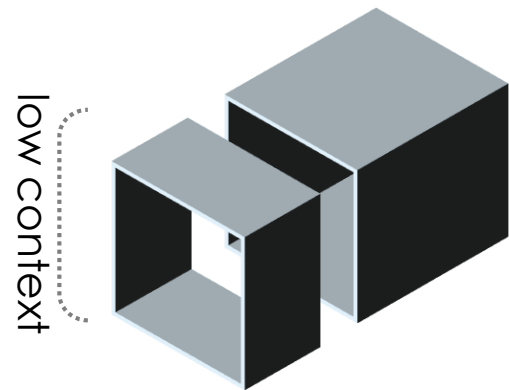
～がある（位置変化）

～である（質変化）

空間的広がり  
を叙述する  
（世の中は足  
し合わせ/ $\Sigma$ ）



「ここいま」  
(here and now)



過去

(1)

Copyright (C) 産業日本語研究会ライティング分科会

過去

high context



「ここいま」  
(here and now)

時間的継起を  
叙述する（世  
の中は掛け合  
わせ/ $\Pi$ ）

未来



(2)

# ～がある／～である

- 単一空間
- 連続時間（出来事間に連続性がある）
- 必然的連鎖
- 力が伝達される
- 近接性が求められる
- 複数空間
- 離散時間（出来事間に順序性がある）
- 偶発的連鎖
- 力は伝達されない
- 近接性は求められない

# 「がある」「である」

## • 位置変化

### • 知覚優位

“I like running.”  
「走るのが好き。」

“I like to run.”  
「走ることが好き。」

“I enjoy reading.”  
「読書が好きだ。」

“He seems to be enjoying the book.”  
「読書を楽しんでいるようだ。」

## • 質変化

### • 認識優位

「食べたら美味さが分かった。」

「食べたら美味さが分かるよ。」

「ご飯食べて風呂に入って寝る。」

「重いよ。ブロンズで作っているのだ」

“This is it.”

“I need it yesterday.”

# 2021年度の活動

- モノの意味の二重性（外形存在と役割存在）
  - 役割的（同一語形で異なる意味を持つ）用例の収集と分析
  - 例えば、「モノ言わぬ、モノがモノ言うモノづくり」／“Manufacture in such a way that products which don't talk implicitly show their own merits.”
- 時間の捉え方の二重性（連続性，離散性）
  - 離散的（出来事間の因果性・関係性の低さを示す）用例の収集と分析
  - 例えば、「ここって、ほっとするね。」／“This place is such a relief.”

# 役割的なモノの表現例

- 「上には上がいる」
- 「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」
  - 心形刀流・松浦静山の『常静子剣談』にある一文\*
- 「変わらない中野、だから（中野は）変わり続ける。」\*\*
- 「たかが○○、されど○○」
  - ○○には同じ名詞をとるが指示概念が異なる

\* <https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/study/history/tabid/1678/Default.aspx> から引用

\*\* 再開発中のJR中野駅で、三井信託銀行中野支店が掲げていた広告から

# 離散的な関係の出来事の表現例

- 「お子様の風邪等による当日の急なお休みにも  
しっかり対応します。」\*
- 「緊張しちゃって全然話せなかった」
  - 発話できなかったのではなく、望むように話せなかったという意味
- 「私は彼に英語を教えた。その上達には驚いた。」

\* 旭川シゴトガイド（旭川のフリーペーパー）から引用

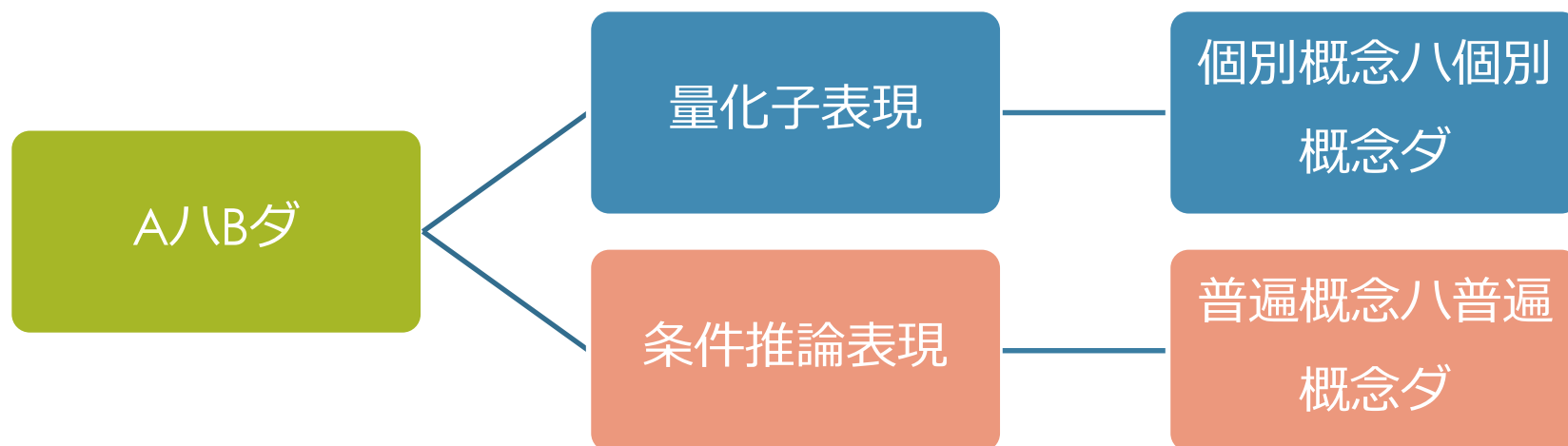


# 利用概念，推論表現の特徴

- 概念が不動性／個体性の傾向にある
  - 量化子 (quantifier) の表現を含む
  - 「すべての」, 「どの～もない」, 「いくらかの」, 「いくらかの～もない」
  - 確率的ヒューリスティクスモデル (probability heuristics model) \*
- 概念が不変性／普遍性の傾向にある
  - 条件推論 (conditional inference) の表現を含む
  - 「もし～ならば～である」
  - 情報獲得 (information gain) \*

\* K・マンテクロウ, 「思考と推論 理性・判断・意思決定の心理学」, 北大路書房, 2015年

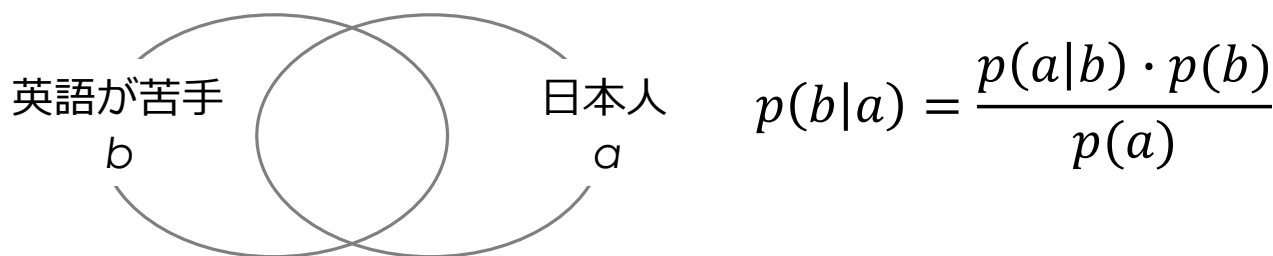
# 「日本人は英語が苦手だ。」



|                  |                    | 解釈モデル           |
|------------------|--------------------|-----------------|
| 個別性の概念<br>「～がある」 | 外形的な実在<br>「日本人がある」 | 確率的ヒューリスティクスモデル |
| 普遍性の概念<br>「～である」 | 役割的な実在<br>「日本人である」 | 情報獲得            |

# 解釈の二重性と叙述

確率的言明\* : prob (英語が苦手 | 日本人)



伝達情報量が大きくなる  
よう量化表現を選択する

個別性の概念  
「～がある」

情報獲得量が大きくなる  
よう条件推論を解釈する

普遍性の概念  
「～である」

\* K・マンテクロウ, 「思考と推論 理性・判断・意思決定の心理学」, 北大路書房, 2015年

# 叙述は合理的（論理的でない）

- 説得型
    - 概念化：不動性
    - 動き：位置変化
    - 物：個別性と集合
  - 形状・量・程度が意味に結びつく
    - 出来事（コト）どうしは連続的につながる
  - 量化表現優位（伝達情報量）
- 共感型
    - 概念化：不変性
    - 動き：質変化
    - 物：普遍性と位相
  - 役割を軸に多視点の意味がある
    - 出来事（コト）どうしが不連続的に表現される
  - 条件推論表現優位（獲得情報量）